

試験研究活動情勢報告（平成30年4月分）

【果樹試験場】

カンキツ受粉用花粉の調製方法に関する研究



採取するヒュウガナツ
の開花状況

「土佐文旦」への人工受粉に用いるヒュウガナツやハッサクの花粉は販売されておらず、農家は自家調達しています。充実した開花直前の花蕾を選んで採取し、葯を取り出して乾燥させ、冷凍貯蔵しますが、受粉の合間の作業となるため効率良く行うことが望まれます。今年度は採取時間短縮のため、無作為に採取した花蕾を調製したところ、採取した花蕾に対する花粉量は少なくなり、発芽率はやや劣ったものの、採取時間あたりの花粉量は増やせることがわかってきました。今後は、得られた花粉の貯蔵性についても検討していきます。

ナシの交雑育種



肥大が進む交雑果実

本県特産の「新高」は新潟県と高知県原産のナシ品種の交雑から生まれたと言われていましたが、農研機構によるDNA分析により、本県の「今村秋」は交雑親でないことが明らかとなりました。現在、本県に適したナシ品種の育成に取り組んでいますが、今までの交雑組み合わせに加えて本県原産の「今村秋」や「馬次郎」を用いた交雑組み合わせにも取り組み始めました。これらの交雑した果実は10月に収穫し1ヶ月低温に遭遇させた後に採種して育成し、早期の結実を目指します。